

災害ボランティア ワークショップ

自治体（県・市町村）、
社会福祉協議会、
ボランティア団体など
の職員対象

日時 平成28年2月16日（火）10時～12時30分

会場 奈良県社会福祉総合センター 5階（研修室B・C）

参加費 無料

定員 100名程度

ひとたび大規模災害が発生すれば、被災地の行政だけで被災住民の支援を行うことは、人的にも物的にも対応の限界を超えてしまうなかで、ボランティアの力は非常に大きなものがあります。しかしながら、具体的なボランティアとの協働方法がわからないため、全国的には被災自治体が受入れを断っているケースも見受けられます。

そこで、行政とボランティアの双方が、互いの連携・協力の方法について共に学ぶ機会をもち、災害時の被災社会の対応におけるボランティアの果たす役割や、市民の力の特徴と行政との関係のあり方について理解を深めることで、実災害の対応の場面に活かすことをめざします。



当日は、同志社大学の立木教授より、過去の事例などから、防災サイクルにおけるボランティア・自主防災組織と行政との協働を含む災害時の異組織間連携を学びます。また、「ハローボランティア・ネットワークみえ」の山本代表、平野氏より、東日本大震災や丹波市土砂災害などでの活動内容や、日常的な活動により地域の結束力を高める方法の紹介をはじめ、ワークショップを通して災害時の連携・協力を実践的に学びます。

【講義】 同志社大学社会学部 立木茂雄教授

専門は福祉防災学・家族研究・市民社会論。とくに大災害からの長期的な生活復興過程の解明や、災害時要配慮者支援のあり方など、社会現象としての災害に対する防災学を研究。阪神・淡路大震災時には約3ヶ月間で延べ7,500名の学生ボランティアのマネジメントにあたった。東日本大震災時は、直後より宮城県名取市に入り、長期的な生活再建支援に関わっている。

【ワークショップ】 ハローボランティア・ネットワークみえ 山本康史代表、平野昌氏

防災を謳わず防災ボランティアの養成ができる取り組みとして、ハローワークのボランティア版「ハローボランティア」の仕組みを作る。イベント支援ボランティアとしても効力を発揮し、その手際の良さは「DIG（災害図上訓練ツール）」を行っていたことが要因と言われている（平野氏は、三重県防災担当職員であった時に小林教授（現富士常葉大学）とともにDIGを生み出す）。

写真は、「紀伊半島大水害の記録」より抜粋

▶ 裏面の申込書にご記入のうえ、平成28年2月2日までに申し込みください。

奈良県

FAX 0742-23-9244 (送付状不要)

災害ボランティアワークショップ参加申込書

団体名 _____

担当者所属 _____

担当者名 _____

電話番号 _____

部署	役職	ご参加者名

- FAX、Eメールまたは郵送で、平成28年2月2日までにお申し込みください。Eメールの場合は、ワークショップ名を明記のうえ、上記フォームに記載の項目をご記入いただき、送信してください。部署ごとにそれぞれ別の参加申込書でもお申し込みいただけます。

お申し込み・お問い合わせ先

奈良県 防災統括室

電話 0742-27-7006 FAX 0742-23-9244

Eメール bosai-event@office.pref.nara.lg.jp

〒630-8501 奈良市登大路町 30 番地

- 受講票はお送りしませんので、当日、直接会場にお越しください。
応募者多数で定員（100名程度）を超えた場合には、先着順とさせていただきますのでご了承ください。
その場合、選外となった方のみ、ご連絡をいたします。
- お申込みの際にご記入いただいた情報については、本ワークショップの連絡のみに使用します。
- 気象状況等により、やむを得ず中止することがあります。

会場案内

奈良県社会福祉総合センター

〔所在地〕奈良県橿原市大久保町 320 番 11

〔電話〕0744-29-0111

〔交通案内〕

- ・近鉄畷傍御陵前駅（東出口）から北東へ徒歩約3分。
- ・駐車スペースに限りがあります。
満車の場合は、センター西隣の橿原市営畷傍御陵前駅東駐車場をご利用ください（1時間以内200円、1時間を超えるごとに100円、1日1回最大500円）。

